

Professional Quest™

Vol. 9



看護師の立場から見た、 医療療養型病院における 無線LANテレメトリシステム導入の意義



北村 千秋 管理師長

医療法人社団 義人会 高木病院

ご略歴

1972年 4月 厚生連中勢総合病院
1986年 5月 厚生連中勢総合病院 看護主任
1988年 4月 厚生連中勢総合病院 看護婦長
1994年 5月 鈴鹿中央総合病院に名称変更 看護婦長
1997年 10月 鈴鹿中央総合病院 副看護部長
2000年 4月 厚生連看護専門学校 副校長
2002年 4月 厚生連 本部 看護担当部長
2004年 12月 医療法人社団 義人会 高木病院 管理師長

※ 本稿は2015年にご執筆いただきました。

肩書とご略歴は2015年時点のものです。



当院は三重県鈴鹿市の最北端である高岡町の県道103号線沿いに位置し、鈴鹿川南部の田園地帯の長閑な自然環境の中になります。大正4年に開設以来、医療制度の幾多の変遷を経て今年で98年目を迎えました。

3代目院長・高木啓(ひらく)の基本理念であった「医療の最終目的是疾病の治療のみならず、人の心の病を治療していくこと」の遺志を受け継ぎ、「地域の皆様に愛され信頼され頼れる病院」を使命としている79床の医療療養型病院です。

当院の特色として、患者の状態に応じた適切な医療と看護を継続的に提供すべく、長期療養を必要とする医療度・看護度が高い重症患者を多く受け入れています。入院患者全体の約10%が人工呼吸器装着患者、70%が気管切開患者と酸素療法患者などで占めています。

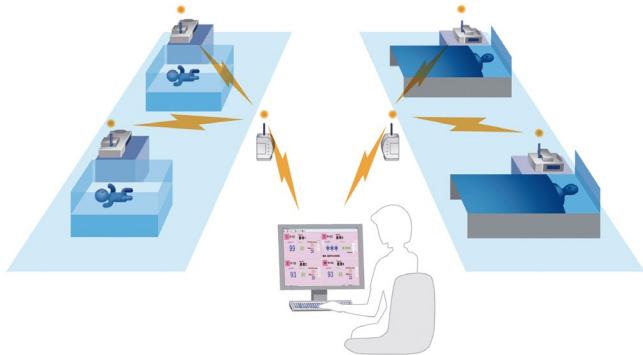
医療技術の発達は急性期疾患による死亡を著しく減少させました。反面、医療技術の限界から生涯にわたり何らかの障害を残し、治療やセルフケアの必要な重症患者を増加させています。これらの影響を受け、看護への期待は量的にも質的にも益々高まり、看護の役割が拡大し、療養病棟入院基本料の看護基準を遥かに超えた看護職員数が必要となっています。

しかし当院に限らず慢性的な看護師不足は深刻で、看護師は心身ともに疲弊しきった状態で患者と接し、その職責と使命感の中で悲鳴をあげています。

病院では飲食店やガソリンスタンドのようなセルフサービスによる効率化を図るわけにはいきません。そこで考えられる対策として、業務のスリム化と労働力に代わるME機器の活用があります。これは業務の省略化に留まらず、業務量の増加に伴う看護力や安全性の劣化を防ぎ、看護師が直接患者と関わる



本来の看護業務に専念するための力強い味方となります。臨床の場において生体情報モニタの設置は、多忙を極める看護師に代わり、患者を観察し情報を発信する有効な手段となります。しかしこれらの装置を必要な全ての患者に導入するには高額な資金が必要となり、病院経営の圧迫になりかねません。そのような状況の中、今回、「Wireless LAN テlemetryシステム SAT-MeSSAGE™」に巡り合いました。



レンタル契約であり補修やメンテナンスにも即応可能な本システムは、病院への経済的メリットもあり、一挙両全の策でした。現在当院では40台のパルスオキシメータを導入し、2台のSAT-MeSSAGE用PCに20名ずつの情報を表示しています。これにより当院既存の生体情報モニタ8名分に加え、同時に計48名の生体情報を24時間連続で管理することが可能となりました。これは入院患者の約60%にあたります。

看護師は、患者のベッドサイドではもちろんのこと、無線LANを用いて送られてくる情報により、ナースステーションにいながらも患者状態を把握できるので、患者の状態変化にも対応できます。SAT-MeSSAGEの導入により業務の省略化のみならず、夜勤帯に他の患者を気遣いながら別の患者の看護に当たる際の不安も軽減されました。

またそのデータは「苦しい」「辛い」などの意思を表出できない患者の代弁的役割も果たしてくれます。

パルスオキシメータによるSpO₂の連続測定は患者の状態の変化にいち早く反応するため、それを知ることで、迅速な対応ができる、早期治療が可能となります。記録もできるので後からデータを確認することも、的確な酸素処方をすることも可能となりました。嚥下障害のスクリーニング検査時、食事摂取時の観察モニタとしても使用しています。



社会情勢や医療情勢の変化に伴い、病棟の状況も目まぐるしく変化する中で、看護の方法も従来から培ってきた技術や知識に加え、新しい技術や機器を取り入れ柔軟に対応することの重要性を痛感しています。これらを上手く融合させることにより更にクオリティの高い看護を提供できるのではないかと思います。しかし、患者の観察やケアを全面的に器械に依存するのではなく、各々の器械のメカニズムを熟知し、動作状況の確認など安全面を最優先し、その中で余裕ができた時間を、看護の手でしかできないことに費やす。この基本の遵守が何よりも重要であると考えます。

今後も私達は看護師としてのるべき姿、なすべきことをしっかりと見据え、患者の心に寄り添い、声なき声に耳を傾け、温かな癒しの眼差しとゆとりある看護の心を持った看護サービスを提供していきたいと思います。

SAT-MeSSAGEの“遠くからでも「観る」「護る」”というコンセプトは私達の心を代弁した、とても素敵なキャッチフレーズです。

販売名 SAT-MeSSAGE シリーズ
医療機器認証番号 227ADBZX00162000
製造販売元 有限会社メディカルライシステム

使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意点等の情報につきましては製品の電子添文をご参照ください。

© 2015-2022 Medtronic. Medtronic及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。
TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。

Medtronic

お問い合わせ先
コヴィディエンジャパン株式会社

Tel: 0120-998-971
medtronic.co.jp

mt-prqu(09)2203
RMS_2021_1048-A-1